

中川根 サッカー スポーツ 少年団



大会を通して交流が深まる

スポーツを通して青少年の健全育成を目指す少年サッカー大会「ジスカップ・増田晴雄杯」は2月14日、町営サッカー場で開かれ、県内各地から16チームが集結。勝利を目指し、熱戦が繰り上げられた。

本町から出場した中川根サッカー少年団（以下中川根）は1回戦、細江サッカー少年団と対戦。前半10分、細江のディフェンス陣がこぼしたボールを小林竜也くんがすかさずシュート、1点をもぎとった。後半、細江の猛攻を受けるも、鉄壁のディフェンスでゴールを死守、1対0で勝

利を手にした。

Aブロック決勝の相手は、神座小サッカー少年団。前半12分、神座小がコーナーキックから1点を先制する。しかしその3分後、藤田隼人くんのコーナーキックを小林竜也くんが押し込み同点に。前半を1対1で折り返す。後半開始早々、猛攻を見せる中川根。細かなパスで神座小を翻弄する。ラストパスを受けた八木司くんのシュートが神座小ゴールネットを揺らした。その後はどちらも決定力を欠き、2対1で試合終了。中川根はAブロック優勝、そして総合優勝に輝いた。

大会を通して、子どもたちの交流が深まったと、浜谷隆康代表は語る。「ジスカップは今年で13回目。子どもたちが、サッカーを通してぎすぎすな深め合うのに最適な場です。毎年たくさんチームが本町を訪れてくれます。少子化の時代、うちの町ばかりではありません。参加したどの町でも、クラブを存続させるのが難しい時代となっています。中川根少年団は6年生が主体のクラブ。その6年生が3月で卒業を迎えるため、クラブの存続が危ぶまれていたんです。それでも今の3、4年生が熱心に練習していますので、何とか続けようと、保護者も含め頑張っているところです」。

技は磨くもの・心は創るもの

次世代の育成を目的とし



浜谷隆康代表（瀬平）

て取り組んでいるのが「キッズ」への指導だ。保育園児から小学1年生くらいの小さな子たちにサッカーを教えている。「月一回くらいのペースでキッズ向けの教室を開いています。サッカーというよりはサッカーボールを使った『遊び』の感覚ですね。人数はまだ少ないですが、小さいうちからスポーツ楽しみ、親しんで欲しいと思っています」。

子どもたちの可能性を広げたいと浜谷さんは言う。「ゆくゆくは総合スポーツクラブのような、何でもやるクラブへの移行も視野に入れています。子どもの可能性を広げてあげることがわたしたち大人の役目。小学生というのは、一番熱心に何でもやる時期だと思います。だからこそ、色々な体験をさせてあげたい。その中で子ども自身が自分に合ったものを見つけられたら、それが一番だと思うんです」。

浜谷さんが恩師から教わった言葉に『技は磨くもの。心は創るもの』という言葉がある。「技はサッカーの技術だけをいうわけではありません。仕事もスポーツも勉強も、人付き合いだって技の一つ。つまりは人間力を磨くということ。このジスカップの主旨そのものなんです。スポーツを通して、子どもたちがすこやかに育ってほしい。ただそれだけです」とほほ笑んだ。

小さなJリーガーたちは、まだボールを追いかけている。誰かが蹴ったボールが、空高く大きな弧を描いた。

川根茶業センターが「奥光」をプレゼント

本大会に出場するすべての子どもたちに、JA大井川農協川根茶業センターから「一煎茶パック」がプレゼントされた。茶どころ川根本町をアピールするとともに、お茶を飲んで元気になって欲しいという願いが込められている。贈られたのは天空の茶「奥光」の赤ラベル・黒ラベルの2種。写真は茶を受け取った中川根サッカー少年団の渡辺父母会長。

